

湖沼の年縞堆積物からわかる過去の環境変動

福本 侑

（立命館グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員：古環境）



アイスフィンガーサンプラーで得られた年縞堆積物 縞 1 枚と西暦の 1 年ごとの対応

湖沼堆積物を用いた古環境復元では、堆積物の年代はおもに放射性炭素同位体の測定から得られます。多くの場合 50 年以上の測定誤差が発生します。一方で季節ごとの流入物がかく乱を受けることなく堆積して形成される「年縞」は、1 年毎の堆積構造が縞模様として保存されているため、詳細な古環境の復元には極めて有効です。今回は年縞堆積物を用いた環境復元に関する進展について、環太平洋地域と北欧の研究事例を中心に紹介します。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumeit.ac.jp/research/rcppc/>